

平成二十四年度卒業式式辞

ことのほか寒さの厳しい今年の冬でしたが、それでも少しずつ日が長くなるとともに日射しに春の気配がし、キャンパスにも春の花の時期が始まるようになっていきます。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業してゆく十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんは四年前または二年前に、園芸を生涯のなりわいとすべく、大なる志を胸に入学してこられました。今、この日を迎えるにあたって、このキャンパスで学友と過ごした間の楽しかったことや苦しかったことなど色々な思い出がめぐってくると思います。共に学んだ友人、キャンパス、時間など、その思い出はお互いの人生にとってかけがいのないものです。その経験やここで得た人と人のつながりは、きっとこれからの人生にとって大切な糧となることを願っています。

ところで、マイスター科の皆さんが入学された二年前に、私が入学式の式辞で述べた、孔子の「子曰く 学びて思わざれば罔し、思いて学ばざれば殆し」という言葉を覚えておられるでしょうか。この言葉の意味するところは、知識を学んでも、問題意識をもって自分で考えなければだめで、問題意識をもっていても知識がなければ心もとないという意味でした。皆さんは在学中にしっかりと知識を身につけ、問題意識をもって考えることができたでしょうか。きっとそのことを各自が認識し、すばらしい学びの経験をされたと確信しています。

卒業は日本では業を終えるという意味ですが、アメリカではコメンスマント・エクササイズといい、実習の始まりという意味があります。つまり、卒業は人生のスタートであり、実社会での学びの本番はこれから始まるということ

です。国際園芸アカデミーで学んだことを誇りとし、自信をもって実社会で生きて行ってほしいと思っております。

ここで社会への門出にあたり、手元にも示しました、これから述べる先人の言葉を捧げたいと思います。

その言葉は、「人生は自分探しではない。人生とは、自分の創造である。」です。原文では、*Life isn't about finding yourself. Life is about creating yourself.* これは十九世紀の終わりから二十世紀に活躍したアイルランド出身の劇作家、ジョージ・バーナード・ショーによる名言です。精力的に作品を書き続け、九十四歳で亡くなるまでに五十三本もの戯曲を残し、ノーベル文学賞も受賞されています。最近の若い人たちが、格好をつけて「自分探しの旅に出る」と言うのをよく聞くことがあります。彼はこの言葉で、人生は自分探しなど生ぬるいものではない、人に言われてではなく自ら築き、自分で創造していくものであると、言いたかったのだと思います。

ここに卒業を迎えられる皆さんは、すでに当校に進学してきた時点で、自分探しは終わっているものと思います。自分の将来を創造するためにそれぞれが目的をもって当校で学んでくれたはずです。そうではなく、自分探しのために当校に進学してきた人もいるかもしれませんが、しかし、もう就職も決まり、自分探しをしている余裕はありません。これからは現場での仕事を通して自らを高め、自分を創造していくのです。そこに人生の楽しみは必ずあるはずで、現状に満足することなく、自分の能力と感性を信じて上を目指してくれることを心より願っています。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えられるのは、日頃の努力のたまものであるのももちろんですが、同時に周りで支えてくれたご家族と教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思えます。その感謝の気持ちを忘れず、それに報いるのは、これからの人生において社会に還元してゆくことに他なりません。そのことをくれぐれも忘れないでください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉といたします。

平成二十五年三月吉日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘